



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

9月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

社会性の育ち

今年の夏も猛暑日が続き、子どもたちを戸外に出していいかどうかを悩む毎日だったのではないのでしょうか。それでも、「夏休み」に、親戚に会ったり、心地よい自然に触れることや家族と一緒にする体験を楽しんだりすることができた人もいます。幼児にとって家族と一緒に過ごす楽しい時間はかけがえのないものです。

保育者にとっては、夏は研修の季節でもあります。時間をかけてじっくり学んだり、生活を楽しんだりすることが、9月から子どもたちとの豊かな生活、教育活動につながっていきます。研修の中で「幸せに生きていくには、幼児期に、自分と他の人を信じる気持ちが育つことが一番大事、身近な大人に大切だと思われることが、自己信頼と社会性を育てる」という話が印象に残りました。

こども園の教育内容の基になるものの一つである『教育要領』の中に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10項目挙げられていて、その一つに「社会生活との関わり」という項目があります。そこには『家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる』と書かれています。ちょっと分かりにくいので、子どもの姿で表してみます。

○夏の間、5歳児は数組の親子と一緒に飼育当番をしてくれました。友達とその保護者の方と協力しながら、園で飼っている亀たちの世話や夏野菜の水やりをしました。＜様々な人との関わり方に気づく、人の役に立つ喜び、情報を伝え合う＞

○園の地域である団地まつりのパトロールを保護者と一緒にしてくれました。＜地域の人との触れ合い・親しみ、家族を大切にできる気持ち、園外への環境への関わり＞

○お富士さんのおまつりに行った5歳児がおまつりごっこを始め、3、4歳児も招待して楽しみました。＜園外での環境を遊びに取り入れる、相手の気持ちを考えて関わる、情報を役立て活動する＞

子どもたちの生活は、大人と同じように社会とつながり様々な情報、状況の中で進んでいきます。

まだ熱中症対策が必要な日々が続くと思いますが、9月からも一人一人が安心して自分の力を広げていけるようにしていきます。お子さんの成長と一緒に、たくさん見付けていきましょう。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・保育者の話やしていることに興味をもち、自分なりにしてみようとする。
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分の思いを動きや言葉で表そうとする。
 - ・自分なりに体を伸び伸びと動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- 〈4歳児〉
 - ・保育者や友達との再会を喜び一緒に過ごす中で、こども園や学級での生活の仕方を思い出す。
 - ・保育者や友達と一緒に伸び伸びと体を動かしたり、自分のしたいことを繰り返して楽しむ。
 - ・葉や木の実など、園庭の自然に触れ、季節の変化を感じたり、遊びに取り入れたりする。
- 〈5歳児〉
 - ・共通の目的に向かって、友達と一緒に取り組む中で、自分の力を発揮しようとする。
 - ・いろいろな遊びの中で、友達と競い合うこと楽しみ、勝つうれしさや負けた悔しさを感じる。
 - ・秋の自然に興味や関心をもち、よく見て調べたり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。